

母の胸に

〔聖書〕詩編 131 編 1～3 節

主よ、わたしの心は驕っていません。わたしの目は高くを見ていません。大き過ぎることを／わたしの及ばぬ驚くべきことを、追い求めません。わたしは魂を沈黙させます。わたしの魂を、幼子のように／母の胸にいる幼子のようにします。イスラエルよ、主を待ち望め。今も、そしてとこしえに。

〔序〕北海道での一週間

先週 2 日の朝 6 時に立出して 8 日夜 7 時半に無事帰って参りました。札幌の宣教師館で奥村牧師夫妻たちと昼食をとり、3 時半に車で旭川に移動。翌朝、北へ一時間半土別で個人的な用事を済ませ、戦争が終わった昭和 20 年を一年間過した剣淵町に小学校時代の友人を訪ね、昼食をとりながら 63 年振りの旧交を温め、旭川に帰って来ました。まだ午後の 3 時半なので、旭川に留まっていた喜美子連れ出して、もう一度塩狩峠の三浦綾子記念館に戻り、剣淵に引き返して小学校を見せることが出来ました。

4 日の礼拝は旭川東光教会で説教しました。札幌時代の最後の 1 年 3 ヶ月、無牧師になった東光の牧師を兼任して、札幌から通って奉仕し、後任者を招いてバトンタッチした思い出の教会です。昼食後に札幌の新会堂献堂式とジョイントして開かれる北海道連合の信徒大会へ参加する人たちと一緒に旭川を出発しました。札幌で先ず教会墓地を訪れて花を捧げ、代表執事をしていて病気で倒れた夫妻を訪ねて励まし、お祈りをさせていただいてから信徒大会に 20 分遅れて参加しました。喜美子は幼稚園・小学科時代の生徒でもう結婚して二人の子の母親になっている K さんが訪ねて来たので 10 時過ぎまで話し相手になっていました。

5 日午後 3 時から新しい会堂の献堂式及びパイプオルガンとグランドピアノ奉献式で、祝辞を述べました。6 日は老齢で式に出席出来なかった方々や病人をお訪ねして回りました。7 日は朝晩の祈祷会で奨励。午後は会食や訪問。夜も祈祷会后 12 時まで来客。8 日も二軒訪問してから空港に行きました。そして空港でも長く幼稚園園長をして下さった姉妹と出発ぎりぎりまで大事な用件について話合うことが出来て、充実した 7 日間の訪問を終えました。

7 日の祈祷会での奨励は、原稿を整理してプリントしますので後日お読み頂けたらと思います（*マタイによる福音書 19 章 29 節 札幌教会の使命）。また嬉しかったことの一端を週報のコラムに書きましたのでお読み下さい。お祈りで支えて下さって有難うございました。また先週の礼拝の様子は A さんがテープにとっておいて下さいました。川越でも良い礼拝をお守りになりましたね。証とショートメッセージを担当された B さん、C さん、A さん、それぞれに良いご奉仕を有難うございました。これからも時々このような礼拝を守っていきましょう。

[1]母の日の起り

さて今日は母の日です。そこで教案を離れてメッセージをさせて頂くことにしました。母は小さい子供にとってばかりでなく、大人にとってもなくてはならない大切な人、有難い存在です。母に感謝を表そうという行事は昔から各地で行われていたでしょうが、5月の第二日曜日にカーネーションを贈って母に感謝を表す母の日は、1907年アメリカのウエスト・バージニア州の或る教会で開かれた記念会からだそうです。去年が丁度100年目でした。

アンナ・ジャーヴィスさんの母は教会学校小学生クラスの先生を26年続けました。或る日曜日「あなたの父と母を敬え」という聖書の言葉を学んだ時、母の愛と労苦を語って聞かせた後で「母の愛に感謝を表わすにはどうしたらよいでしょうか」と生徒たちに問いかけたそうです。そのクラスの生徒だったアンナは、その時から「お母さんに感謝する方法」という宿題をずっと心に温め続けました。そして自分が43才になった時に、母が奉仕をしていた教会で、2年前に亡くなった母の記念会を開いて、母が好きだったカーネーションの花を、皆さんに贈るという感謝の表わし方をしたのでした。

アンナの挨拶を聞いた教会員たちはとても感動し、これから毎年皆一緒に自分たちの母への感謝を表わす会を守ろうと話し合いました。これが他の教会や町の人々にも伝わり、デパート王ジョン・ワナメーカーの耳に入りました。彼も日曜学校の校長をずっと勤めている熱心なクリスチャンだったので、次の年から自分のデパートでも母に感謝する集会を開きました。こうしてアメリカ各地に広まり、1914年大統領が5月第2日曜を母の日にする文書に署名、それから世界に広まってきました。日本には大正初期に伝わったそうです。

[2]母親の役割

神さまは人間を男と女にお創りになり、二人が一つに結ばれて子供を産み、育てるようになさいました。子供は父と母の愛の中で、神さまの愛を表わす人格へと育つようにお考えになったのです。では父親と違う母親の役割は何でしょうか。

詩編 22 編 10 節に「わたしを母の胎から取り出し、その乳房にゆだねてくださったのはあなたです」という言葉があります。「神さまは自分独りでは生きることの出来ないか弱い嬰兒を、先ず母親の乳房に委ねて、養い育てるようになさった」とダビデは歌ったのでした。母親が我が子を両手で胸の中に優しく抱き、乳房から乳を与えて安らかに眠らせることによって、嬰兒を健やかに育てていくのが、母親の役割なのですね。

さて今日の聖書詩編 131 編 2 節では、「わたしは魂を沈黙させます。わたしの魂を、幼子のように、母の胸にいる幼子のようにします」とダビデは歌っています。口語訳聖書では「乳離れしたみどりごが、母のふところに安らかにあるように、わたしはわが魂を静め、かつ安らかにしました」と訳されています。

ユダヤ人はたっぷり授乳期間をとるので、乳離れは大体3才位なのだそうです。もう十分に自分

の意志で活発に行動する子供です。もう乳房から乳を飲む必要はありません。でも依然として母のふところは子供たちの人格形成に無くてはならない大切な場所なのですね。母のふところに戻ってくることによって、子供たちは情緒の安定を取り戻し、魂の平安と信頼感が次第に深く養われていくのです。母親たちが、自分たちのふところを通して、神さまのふところに生きる者の平安を我が子に悟らせることが出来たら、その子はどんなに幸いな生涯を送ることが出来るでしょうか。

フランスの小説家 T.ボヴェーがこう言っています。「母は、何かをし、何かを言うよりも、そこに居るだけで十分に役割を果たしている。神に全幅の信頼を寄せることが出来るということ、我が子に与えた母は、彼女の人生の役割を全うしている」。そうですね。神さまへの深い信頼感が養われていけば、我が子が大きくなって、厳しい困難の中に立たされた時にも、或いは成功して傲慢に陥りそうになっても、正しい身の処し方ができるでしょう。

今日の詩編でも、立派な大人になったダビデ王が、母の胸に抱かれている幼子のように、魂が安らぎ、平安を保つことが出来ていると歌っています。母の胸は本当に神さまに全幅の信頼を寄せる信仰の揺り籠なのです。

[3]信仰によって見えてくる望み

皆さん、この書をご覧ください。私たちが先月川越教会の牧師館に引越して来ましたら、D兄弟がお祝いに下さった額です。びっくりし恐縮しました。実は二年前に横浜の教会で美術同好会の展覧会があり、Dさんも付き合いで書を三点お貸しになりました。私はシンガポールから帰国した横浜在住の教会員を誘って、観に行きました。そして展示されていた三点の中でこの字が一番印象的で好きですと、報告したのです。そしたら今回それを下さったのです。

書齋で毎日飽かずに眺めています。これは望という字です。目を見張る形と人が背伸びしている形とを合わせて、遠くを見る様子を表す字だと、角川漢和辞典に、字の成り立ちが説明されていました。しかしDさんの字を見ていますと、太い部分は、今日のこの説教を準備したせいもあって、どうも嬰兒が母親のふところに頭を寄せて抱かれているように見えるのです。しかも全身をすっかり母親に委ねて居ながら、子供の足がしっかりと母を支えているように見えるのです。我が子を胸に抱擁して養い育てながら、実は母も我が子によって支えられて居るのです。まさに母子一体で生きている姿ではないでしょうか。

薄い部分は月という字に見えます。月なら遠い夜空から辺りを明るくしているはずですが、この月は抱き合う母と子のすぐ傍に来ています。これは恵みをもって守り、光をもたらして希望を示して居られる神さまがすぐ近くに居て下さることを表している書ではないかなと、今は受け取っています。

太い部分は誰にでも分かる現実の母子像、薄い部分は信仰がなければ見えてこない神さまの恵み。今日の詩編では3節が「イスラエルよ、主を待ち望め。今も、そしてとこしえに」とありますが、口語訳では「イスラエルよ、今からとこしえに、主によって望みを抱け」です。Dさんの書からすると、

口語訳の「主によって望みを抱け」の方がぴったりしますね。薄い部分の神さまの臨在を、信仰の目をもってはっきりと見ることが出来る時に、懸命に我が子を抱いて育てている母にとっても、その母のふとところで平安に養われる子供にとっても、豊かな命に生きる望がもたらされるのではないでしょう。

[結]信頼と平安を取り戻す

2才から3才の子供を育てているお母さん 6000 人の調査によると、子育てを辛いと感じたことがある： 90%、子供が可愛いと思えない時がある： 80% とあったそうです。結婚前に保育所の保育士をしていた 2 才の男の子のお母さんがこう語っていました。「子供をぶつならお尻より下と決めていた。そのうちに頬や頭をぶつようになった。隣の部屋に逃げる彼を追いかけて叩き、蹴ったこともある。どこまで叩いたら気が済むのか、出口が見えなくなっていた。私自身子供を少しずつ嫌いになり始めていたのが、恐ろしかった」。

我が子を両手で胸の中に優しく抱き、乳房から乳を与えて平安を与える役割を神さまから托された母ですら、我が子を愛せなくなる時があるのですね。私たちは、子や母すらも優しく真実に愛せない罪深さを負う者なのです。その罪を清められて、初めて互いに愛し合い、支え合って生きることが出来るようになります。

母は子を選べません。それ以上に子も母を選べません。自分で選べなかったゆえに、思うようにならない我が子の現実に、愛が冷えていく時、神さまはイエス・キリストとなって私たちのすぐ傍らに来てくださいます。そして限りなく優しい愛で、冷えていく私たちの愛を暖めて下さいます。愛せない罪をご自分の身に引き受けて、担って下さいます。十字架の死という命の代価を支払って、貴方は限りなく貴いのだよと教えて下さいます。

「イスラエルよ、主によって望みを抱け」子育てに苦労しているお母さん方が、自分の傍らに来てくださっている愛の神さまに気が付いて、深い信頼と平安を取り戻し、豊かな命に生きる望みを抱いていただきたいものです。

完